

沖縄県初のデジタルシネマプロジェクトを導入 観客に高品位の映像を提供し、さらに運営効率化を図る

沖縄県で3つのシネマコンプレックスを運営する國場組様は、3つめの施設建設に際して集客力アップをめざし、県内で初めて最新のDLP Cinema®プロジェクトを本格的に導入しました。観客には画像のきれいさ、鮮明さが好評であり、運営側にはオペレーションの手間の削減という大きな効果が得られています。國場組様は映画作品デジタル化の動向を踏まえ、今後もデジタル化を推進し、効率的な運営と多彩なコンテンツ提供を計画しています。

映画に触れる機会の提供を目的に 3つのシネコンを運営

1931年創業の國場組様は、沖縄県最大のゼネコンとして有名ですが、現在建設本部と流通・サービス本部の2本部制を敷いています。流通・サービス本部には、シネマ、外食・飲料販売、燃料販売、保険販売、碎石・火薬の部門があり、それぞれの事業分野において先駆的な事業を展開し、常に業界をリードしています。

シネマ部は、1997年に沖縄県初となるシネマコンプレックス『ミハマ7プレックス』を、また2002年には那覇新都心に『シネマQ』をオープン。さらに、2005年12月にはイオン南風原ショッピングセンター敷地内に3つめの『サザンプレックス』をオープンしました。

『サザンプレックス』には業界最先端のDLP(Digital Light Processing) Cinema®プロジェクト『NC2500S』を採用したデジタルシネマシステムを導入。県内外で大きな話題になりました。

シネマ部次長の玉城成則氏は、沖縄県における市場環境とシネコン事業について次のように語ります。

「当社がシネコンを事業として展開したのは、沖縄(本島)124万人の県民に十分なスクリーンを供給し、映画に触れる機会と環境を提供することにありました」

1シネコン当たりの適正な市場人口は約45~60万人。偏在する沖縄県の人口を考えると、3つのシネコンでも施設の供給は過剰気味になります。こうした状況

下で「映画人口を拡大し、新たなシネコンへの集客増を図るには、話題性があり、ニュースになるものが必要でした」と玉城氏。國場組様はその目玉として選んだのはNECの『NC2500S』でした。

NECの先進の最新機種と メンテナンス体制を評価

DLP Cinema®プロジェクト『NC2500S』は、最高輝度を誇り、解像度は2K、スクリーン幅は25mにまで対応する先進のプロジェクトです。DLP Cinema®プロジェクトの採用は、もちろん沖縄県では初めてのことであり、最新機種『NC2500S』はNECがお客様に納入する第1号機でもありました。

DLP Cinema®プロジェクトを核とするデジタルシネマシステムは、フィルムレスのためきれいな画像を見ることができ、しかも画質劣化がないという優れた特長があります。また従来のフィルムによる上映に比べ、映写スタッフの要する工数も削減できるというメリットも得られます。

『サザンプレックス』は、7スクリーンを有し、全1,056席という規模で、映画内容により、最適なスクリーンを選びデジタルシネマを上映しています。

「デジタルシネマ導入を前提に、数社からのプレゼンテーションを受けましたが、NECは国内メーカーであり、メンテナンスの面でも安心できることからパートナーに選びました」と玉城氏。

シネマ課課長補佐の渡久地正章氏は、



株式会社國場組
流通・サービス本部
シネマ部
次長
玉城 成則氏



株式会社國場組
流通・サービス本部
シネマ部シネマ課
課長補佐
渡久地 正章氏



株式会社國場組
流通・サービス本部
シネマ部シネマ課
マネージャー
伊是名 義之氏

お客様プロフィール

社 名 株式会社 國場組
創 業 昭和 6年7月 2日
設 立 昭和43年1月27日
資 本 金 20億2,781万円(平成14年6月22日現在)
URL <http://www.kokubagumi.co.jp/>



導入に際しての経緯をこう語ります。

「NECには、プロジェクタを可動式にし、観客数に合わせて可変的な運用を可能にすること。ランプは35mm映写機と併用できるようにして汎用性をもたせることなどを要望しました。また1号機ということもあり、熱心に導入を進めてくれるだろうという期待もありました」

そして、要望も実現でき、期待どおりのシステムが完成したと述べます。

鮮明な画像を観客に提供 オペレーション効率化も実現

『サザンプレックス』で実際の運営に携わるシネマ部シネマ課マネージャーの伊是名義之氏は、次のように語ります。

「導入後、大きなトラブルはまったくありません。運営を行う上で大切なのは、何かあればすぐに対応してもらえるという安心感です。マネージャーという立場上、このことが一番になります」

実際にデジタルシネマを観たお客様からは“色がきれい、鮮明である”との声が聞けるとのこと。

「画像に関しては、大人よりもむしろ

小・中・高校生のお子さん方のほうが敏感で、評価が高いようです。

また、オペレーションについても、慣れると非常に簡単です。フィルム上映に対して、映写の作業に掛かる手間が3割くらいですみます。長年の経験がなくてもオペレーションできることも大きなメリットです」と伊是名氏。

話題として大きく取り上げられたため、すべてデジタル化された作品が上映されると勘違いする方もいらっしゃるのですが、コンテンツのデジタル化は今後ますます進むことは明らかです。

「これからは作品供給の動向に合わせて、デジタル化を進め、館内でのセンターコントロールや本社からのリモートコントロールなどを実現し、オペレーションの効率化をめざしたいと思います。また、近い将来、映画以外のコンテンツとの融合も必要になってくるでしょう」と玉城氏は、将来の展望について語ります。

FOCUS POINT

映画館での使用シーンを考えた以下のような性能や機能を搭載しました。

1.対応最大スクリーン幅25m

最大7KWのランプが発生する熱、光エネルギーの影響を抑える構造系、光学系、冷却システムの技術と最先端の映像技術でスクリーンサイズ横幅最大25mを実現。あらゆる大画面ニーズに対応。

2.使い勝手を重視した機能を搭載

(1)レンズ位置、ランプパワーのメモリ機能

入力信号ごとにズーム位置やシフト位置を記憶するレンズメモリ機能、スクリーン上の映像の明るさを記憶するランプパワーメモリ機能を搭載。画面サイズや明るさの設定が違う信号を複数上映する場合でも、信号選択のみの簡単操作で登録された設定条件を呼び出し上映が可能。

(2)ランプ出力の制御機能を搭載

光センサーを用いた制御回路によってランプの光量を内部で検出し、使用時間経過に伴う明るさ低下に対し、明るさの変動を最小限に。

(3)タッチパネル採用(オプション)

分かりやすい画面で簡単に操作できるタッチパネルを用意。

(4)内蔵型マルチメディアスイッチャ(オプション)

映画用デジタル信号だけでなくRGB/VIDEO系のアナログ信号やPCなどによる特殊なデジタル信号を接続可能。シアターの使用シーンを拡大。

3.フィルムプロジェクタ用ランプが使用可能

市販のフィルムプロジェクタ用ランプも使用可能でランニングコスト重視の映画館ニーズに対応。

Digital Light Processing、DLP、DLPロゴ、DLP Cinemaは、テキサス・インスツルメンツの商標です。

問合せ先

NECビュートロジー
第二販売推進本部

東京:03-5232-6148
名古屋:052-243-7301
大阪:06-6532-9451

受付 8:30~17:15 (土・日・祝
祭日、その他特定日除く)
URL <http://www.nevt.co.jp/>

※記載された会社名及び製品名は、各社の商標または登録商標です。